

## 2020年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

<b>学校ビジョン</b>	次世代リーダーの育成
○『学力の伸長』 ・難関大学, 医歯薬系大学の合格 ・体系的カリキュラム	
○『主体性行動力の育成』 ・探究学習の推進 ・プレゼンテーション力向上	
○『協調性を高める』 ・異文化, 多様性の理解 ・いじめのない学校	

<b>校 訓</b>
自学自律
<b>本年度の学校目標</b>
個々を伸ばす 6+α

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%～80%⇒A 80%～60%⇒B 60%～40%⇒C 40%～20%⇒D 20%～0%⇒E とする

### 【分掌】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
<b>総務部</b>	PTA活動は役員と連携が取れており、問題はない。本来の学校総務としての活動ができていない。	■各分掌・学年の活動をサポートし、それぞれが充実した教育活動に望めるように協力する。	■各学年の探究学習において、外部講師派遣や、研修旅行の外部折衝など、学年団の補助を行う。 ■総務部員が他の分掌の補助人員として、各分掌活動への協力を進めていく。	■		■	■		
<b>教務部</b>	自学自律は学力が主軸であることを強く意識し、授業改革、学力強化を継続していく必要がある。	■授業改善により、学力強化につながる学習活動を活性化させる教務活動を実践する。(校内外の考査・模試・学力調査、進路結果等により検証する。)	■授業改善の方法として、PDCAサイクルを学習指導に取り入れる。学習活動(教科・行事にも)に評価(ルーブリック)を作成して、生徒へフィードバックしていく。 ■e-ポートフォリオにつなげるために、各種の学習・活動の振り返り指導をおこなっていく。	■		■	■		
<b>進路指導部</b>	中学生の進路意識、関心の向上がまだまだ不十分であり、高校での進路目標決定の遅れにつながっている。	■要望に見合った進路情報の提供と、キャリア教育の充実に努め、中学生の進路意識高揚を促す。	■大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適切な情報を提供する。 ■講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■		■	■		
<b>生活指導部</b>	問題行動の件数は少ない。また、遅刻者指導の対象となる生徒も少ない。	■他者に対する関心と敬意を抱くことで、道徳心を育てる。(倫理観の育成)	■教員による「さわやか挨拶運動」を実施する。 ■朝終礼において担任から挨拶の意義を説く。	■		■	■		
<b>保健管理部</b>	保健室の利用状況は改善されてきた。	■保健室利用規定を徹底し、生徒の健康管理に努める。感染症が拡大しないよう努める。	■保健室利用規定を春のホームルームで確認する。 ■コロナ関連の情報を収集し、校内でできる対策をとる。(アルコール消毒の設置、換気など)	■		■	■		

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
生徒会指導部	北斗祭体育の部では、生徒会役員と、執行委員が協力して企画運営を行った。	■北斗祭等の学校行事において、生徒がより主体的に考え活動出来る場面を増やす。	■代議員会、執行委員会等の会議を通して、多くの生徒の意見を反映できるような企画を立案させる。 ■各行事の役割分担を明確にすることで、生徒各自に行事を牽引する責任感を持たせる。	■		■	■		
人権教育部	臨時休校の影響で予定していた講演会は中止となったが、PTA人権教育部の協力により、研修会の参加や広報誌の発行など連携しながら行った。	■PTA人権教育部と連携し、人権教育の研修会や講演会を企画・実施する。	■PTA人権教育部と人権教育部教員の役割分担を、相互に確認する。 ■PTA人権教育部の方に、関係機関が主催する研修会への参加を依頼する。	■		■	■		
事務部	来訪者及び電話の対応、その他対外的にまだまだ改善出来ることがある。	■迅速かつ丁寧な言葉遣いや対応を心がける。	■慌てずに落ち着いた対応をする。 ■電話3コール対応。電話の保留時間の短縮のため適切な場所に繋ぐ。	■		■	■		
特別支援委員会	LD専門員・SC・SSWと連携をとりながら個性や特性にあわせた支援を考え、実践できるようになってきた。	■特性のある生徒に対して全職員統一した支援を行う。	■指導計画に沿って個々の情報を共有する。 ■専門家から助言を受けたことを全職員で共有する。	■		■	■		

【教科】

国語	各自が研修会に参加し、教科内でその情報を共有することにより、共通テストと新課程の研究を行っている。	■言語活動及び思考力、判断力、表現力に重点をおいた授業実践と、新課程の研究を行う。	■模試の問題や共通テスト対応問題集を分析研究し、授業にその要素を取り入れる。 ■教科指導に関わる研修に参加し、情報を共有する。	■		■	■		
社会 地歴 公民	主権者教育に関し、模擬投票を実施できなかったという課題が残った。	■高校生に対する主権者教育を充実させる。	■現代社会の授業を中心に、政治制度に対する理解を深める。また、今年度版の「私たちが拓く日本の未来」が配布され次第、学習を進める。 ■外部機関と連携し、主権者教育を実施する。10月を目処に模擬投票ができるよう、計画を進める。	■		■	■		
数学	2021年度入試から始まる大学入学共通テストに向けて、試行問題の研究・分析をおこなった。	■大学入学共通テストおよび国立大学2次試験への対策を十分におこない、得点力を身に付けさせる。	■共通テストで出題が予想される対話形式の問題や実生活への利用の問題については重点的に演習していく。 ■複数の解法について問われる問題も出題が予想されるので、授業でも別解を紹介したり生徒に考えさせたりする。	■		■	■		

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	実験など授業の状況によっては、活発な意見交換を実施することができた。また、ICTを活用しての授業もある程度実施することができた。	■中学生は自分でテーマを決めて課題研究に取り組む姿勢を育てる。	■長期休業中にICT(タブレット等)を使って、生物分野の身近な植物、動物の写真や動画を集め、集約して発表させる。 ■グループ活動を通して、お互いの考えを発表し、生徒同士で評価させる。						
英語	ALTとの授業、パフォーマンステストを行うなど、英語コミュニケーションの意欲を喚起する。	■生徒の英語コミュニケーション能力を高める。	■ALTと協力してパフォーマンステストを実施し、生徒の英語運用力を高める工夫をする。 ■英検の積極的受検を促進及び対策、GTECの対策を行い、英語を話す力の向上を図る。						
保健体育	安全に留意した体育の授業を進めることができています。また、運動が得意でない生徒も積極的に授業参加ができるようになってきた。	■授業の中で生徒自らが考える主体的な活動を増やし、思考力・判断力を養う。	■グループ活動を多く取り入れ、課題を見つけ、話し合い、解決する能力を高める授業展開をする。 ■ダンスの授業において、グループで企画、練習などを行い、発表する場を設ける。						
技術家庭科	日常生活において、ものづくり、衣・食・住などに関する体験に乏しい。	■学習活動や実習で得られた知識や体験を日常生活に生かしていけるようにする。	■プレゼン発表や調理実習をグループで実施し、方法、理由を考えさせる機会を設ける。						
情報	ICTを活用して自分の意見等を伝える技術を十分取得していない。	■目的に応じて適切に取得した情報を、相手に伝わるようプレゼンできるようにする。	■プレゼンを通し、情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信・伝達という流れを体験させる。 ■機器の基本的な操作技術を習得する。						
音楽	ほとんどの生徒があらゆる演奏の場面において、主体的に音楽を表現するということができなかった。	■音楽の様々な側面を知覚し、曲に対する自分なりの考えを持ち、それを音や音楽によって伝えることができるようになる。	■様々な国・年代・ジャンルの音楽を鑑賞し、その音楽についての理解を深める。 ■歌唱の際、その曲に対する自分なりの考えや表現法を各生徒にプレゼンテーションさせる。						
美術	個々の題材については、学習内容を深めることができたし、題材間のつながりまで吟味し、再構築していくことがある程度出来た。	■題材間のつながりまで吟味し、ある程度再構築出来た学習内容を考察しながら授業を実践してみる。	■ある程度再構築出来た学習内容を再度考察していく。 ■再考察した学習内容で授業展開してみる。						

【学年】

	2020年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2019年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	志望校へ向けた学習への取り組み具合が様々である。	■第1志望進路を目指した最大限の努力と、真摯な学習活動を継続させる。	■目標値を自覚させ、そのためにどのような努力をするべきかを明記させた上で、定期的に振り返りをさせる。 ■模試結果から補習分野を確認し、個人面談を通して自主学習の時間を持つよう指導する。	■		■	■		
高校2年	志望進路を定め、それにむけて探究する力が弱い。	■探究学習によって課題発見及び課題解決に繋がる力を身につける	■探究学習の各場面でのどのような力を身につけるか(目標)を明確にした上で活動させ、定期的に自己評価させる。 ■積極的に情報収集を行うことを指導し、その活用につなげる。	■		■	■		
高校1年	探究学習の態度は身につけてきている。	■探究学習を通して進路選択をさせる。(適切な文理選択を行う)	■進路探究に結びつけるため、自分たちで調べる力を身につけさせる。(LHR、面談、ゲストティーチャー等) ■興味のある大学の資料を取り寄せる。可能ならば大学見学、オープンキャンパスへの参加を促す。	■		■	■		
中学3年	大山宿泊研修及び探究学習成果発表会において、企業や事業所の課題解決につながるアイデアを具体的に提示することができた。	■探究学習を通して、異文化理解を深めるとともに将来の進路決定につなげる。	■事前学習において、各班でテーマを設定し、ある程度の完成イメージと行動計画を立て、現地でのフィールドワークにつなげられるようにする(海外研修)。 ■課題研究メソッドを活用し、テーマ設定、仮説の設定、調査・実験の実施を計画的に進める(個人探究)。	■		■	■		
中学2年	探究学習を通じて、地域の課題について調べ、発表をすることができた。今後は、より主体的に学習に取り組んでいきたい。	■探究学習によって、地域について深く考察し、課題解決に向け、主体的に行動しようとする意欲・態度を身につけさせる。	■フィールドワークや職場体験を実施することで、地域の問題を自分自身の問題として捉えさせる。 ■プレゼンの資料作成や発表に取り組むことで、自分達の学習成果をまとめ、発信する力を身につけさせる。	■		■	■		
中学1年		■あいさつ、時間を守る習慣を身につけさせる。	■始業・終業のあいさつは必ず椅子をしまい、姿勢を正し、学級委員長・副委員長はきちんと気をつけが出来ているかを確認させる。 ■教員が早めに教室へ向かい、朝礼・授業でのチャイム席を守るように指導する。5分前から朝読書を開始するように指導する。	■		■	■		